

# 災害対応マネジメントセンター

## 平成27年度 事業報告

---

# I. センター概要

---

## 1. 沿革

- ・平成27年1月、東日本大震災時に、他組織・期機関と連携した活動経験を有する東北大学病院が、官学産民医が密接に連携した災害対応体制整備および人材育成を行うことを目的として、総合地域医療教育支援部内に設置。
- ・宮城県の採択を受け、補助金（新基金）を財源としていたが、**平成27年度で終了**

## 2. 事業

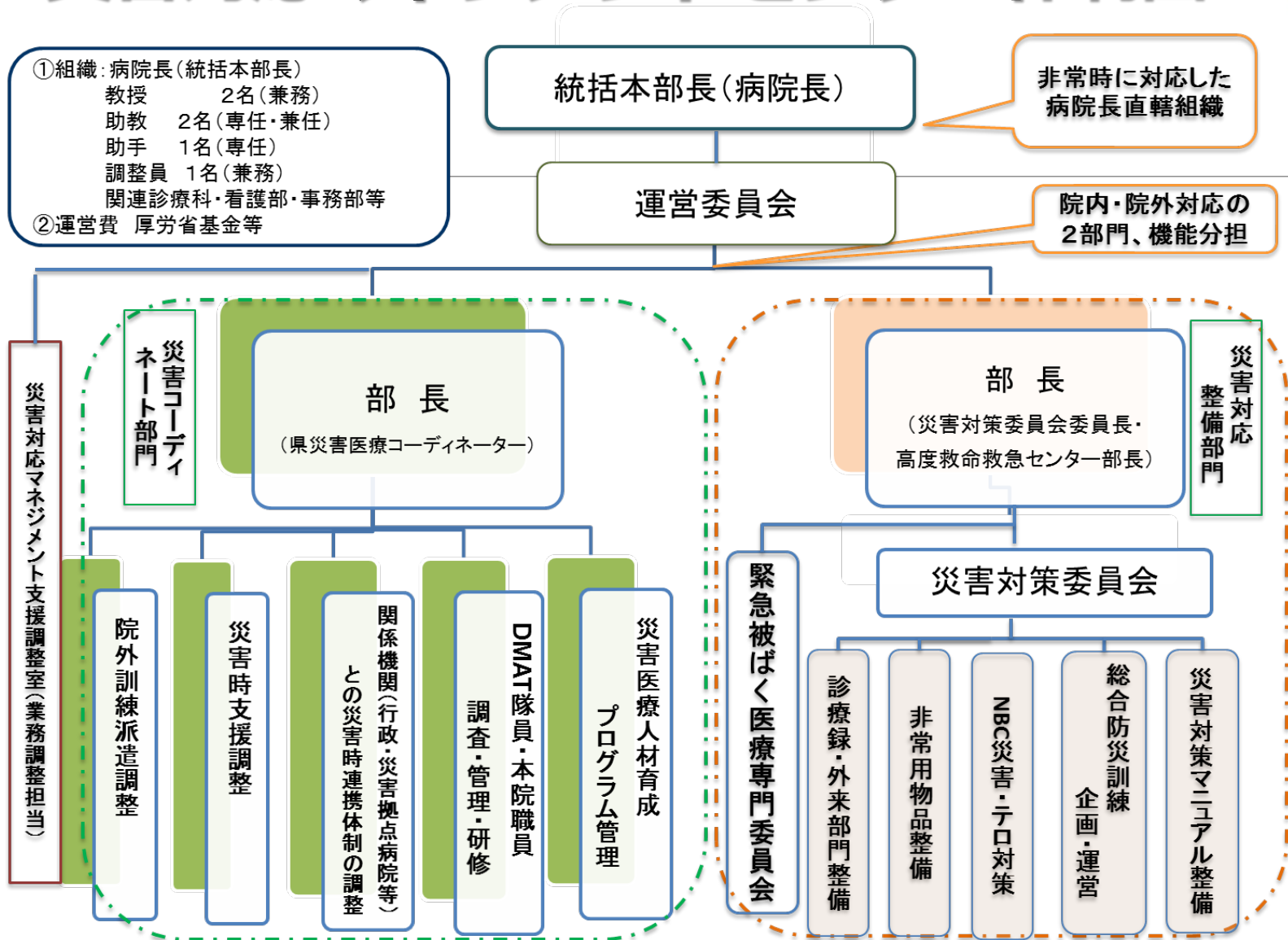
### 2-1. 対外活動

- ・国、地方自治体、医療機関等が推進する各種災害対策活動に関して、監修、運営参画、指導、助言を行う。

### 2-2. 院内での活動

- ・災害対策委員会・緊急被ばく医療専門委員会を通して、災害対策マニュアルの策定や総合防災訓練・緊急被ばく医療体制の整備、訓練の運営・実施について主導的役割を担う。

# 災害対応マネジメントセンター体制図



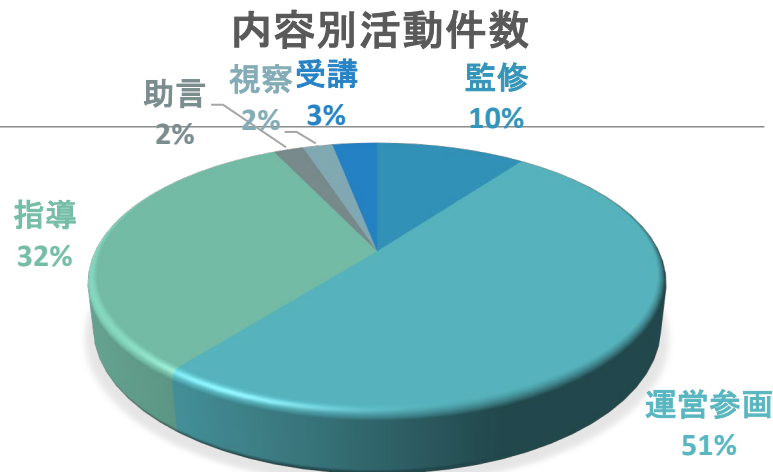
# Ⅱ. 平成27年度 事業実績

※別紙参照

## 1. 活動全体：99件

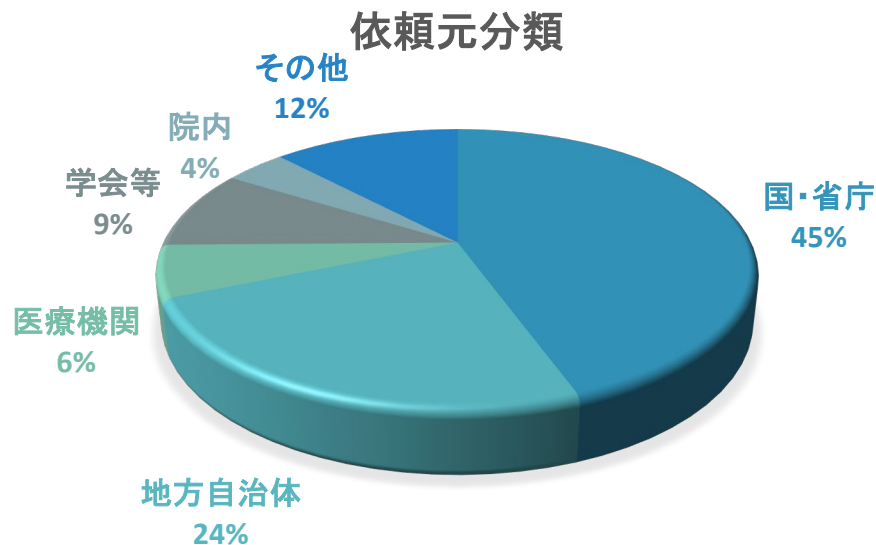
### 1-1. 内容別活動件数

監修	： 10 件	(10%)
運営参画	： 50 件	(51%)
指導	： 32 件	(32%)
助言	： 2 件	(2%)
視察	： 2 件	(2%)
受講	： 3 件	(3%)



### 1-2. 依頼元分類

国・省庁	： 44 件	(45%)
地方自治体	： 24 件	(24%)
医療機関	： 6 件	(6%)
学会等	： 9 件	(9%)
院内	： 4 件	(4%)
その他	： 12 件	(12%)



# Ⅱ. 平成27年度 事業実績

## 2. 主な対外活動

### ① 国連防災世界会議

**開催日**：2015年3月13～18日

**実施主体**：仙台市、外務省

**経緯**：仙台市からの会期中の医療体制について依頼あり

**参加人数**：多機関

**活動概要**：国連防災世界会議における仙台市内の医療体制の整備、本院のマニュアル策定、医療体制整備、事前訓練への参加、会期中の医療班待機を実施

**詳細な活動内容**：NBCWG・診療WG・放射線養生WGを適宜開催  
国連防災世界会議対応説明会（7回）  
除染テント設営訓練（3回）  
机上シミュレーション・実働訓練（3回）  
消防との調整・実働訓練（2015年2月24日）

## ②UDME研修会 (国立大学附属病院大学病院 災害管理技能者養成研修会)



開催日 : ①2015年12月15～17日  
②2016年3月16～18日

実施主体 : 国立付属病院長会議常置委員会

参加人数 : ①43名 ②108名

※病院長、看護部長などの病院幹部、多数受講

活動内容 : 各大学病院で災害対策を推進できる人材育成のための  
講義・シミュレーションの実施

※東北大学病院は講義を**5つ**担当 (全23講義中)

詳細内容 : 東北大学病院が担当する講義

- 1.東日本大震災における病院対応 (講義)
- 2.被災地内大学病院の対応 (シミュレーション)
- 3.東日本大震災での経験 (受入側) (講義)
- 4.災害対応マネジメントセンター紹介 (講義)
- 5.職種別講義

### ③ 仙台空港航空機事故対処 総合訓練

開催日：2015年11月5日

依頼元：国土交通省東京航空局仙台事務所

訓練主催：仙台空港緊急計画連絡協議会

訓練参加機関・参加人数：68機関、399名

活動概要：仙台空港での災害発生時における超急性期医療対応の検討、  
各参加機関との連絡・調整、傷病者想定作成、  
想定付与・ムラージュ等の医療部門の訓練内容の充実

詳細内容：仙台空港事務所での調整連絡会議に参加（7月～1回/月）  
机上シミュレーション（1回）  
宮城県内の医療機関から「訓練準備チーム」を立ち上げ、  
訓練準備を実施



## ④宮城県災害医療技能研修会

開催日：①第2回：2015年1月8～9日

②第3回：2015年11月26～27日

主催：宮城県

実施主体：東北大学病院

受講者数：①51名 ②42名

参加医療機関：宮城県内の医療機関（18）、消防機関（1）、  
宮城県庁、看護専門学校生

活動内容：日本DMAT隊員養成研修の1.5日研修会

活動詳細：県内医療機関よりタスクを募集し、事前勉強会を開催  
傷病者役の看護学生に、授業の一環としてトリアージ  
講義を実施





## Ⅱ. 平成27年度 事業実績

### 3. 主な院内活動

#### ① 災害対策マニュアル改定

---

**開催頻度**：2週間に1回定期開催

**活動概要**：①平成26年度の総合防災訓練の振り返りをもとにWGを実施  
⇒平成27年10月、第7版をリリース

②平成27年度の総合防災訓練の振り返りをもとにWGを実施  
⇒平成27年10月31日総合防災訓練実施し、訓練後の  
振り返りから課題抽出し、マニュアル改定作業中

#### 具体的な検討項目

：災害対策本部の組織図、  
夜間・休日の本部立ち上げフロー作成、  
アクションカードの見直し、初動期の搬送班設置、  
テレビ会議システム、外来エリア動線・人員配置、  
災害時コンタクトリスト作成等

## ②総合防災訓練実施

開催日：2015年10月31日（土）

訓練場所：正面玄関ピロティ・外来診療棟

訓練参加機関：大崎市民病院、東北労災病院

仙台市消防：救急車両（1）、消防ヘリ（1）

訓練参加者：約400名（医療従事者、事務職員、警備員、運転監視員、  
医療事務委託業者、医学部学生、消防・他医療機関職員等）

外部訓練評価者：石巻赤十字病院より5名

訓練概要：初めて休日開催し、外来診療棟での活動を中心に検証

訓練内容：①災害対策本部立ち上げ訓練

②外来部門：外来支部、患者避難誘導、帰宅困難者対応

③多数傷病者受入訓練

④仙台市消防局、大崎市民病院、東北労災病院と連携し、  
ヘリ実機による多機関間患者搬送訓練を実施



病院長

災害対応整備部門  
部門長：久志本成樹

緊急被ばく医療専門委員会  
委員長：久志本成樹  
委員長補佐：細井義夫

副委員長 ● 江川新一（災害医療国際協力学）  
● 石井 正（災害コーディネイト部門）

委員

- 高瀬圭（放射線科診断科）
- 神宮啓一（放射線科治療科）
- 藤田基生（救命救急センター）
- 佐藤哲也（救命救急センター）
- 皮膚科担当者
- 血液・免疫科担当者
- RIセンター担当者
- 梁川功（診療放射線技師長）
- 阿部豊悦（診療放射線副技師長）
- 大里りり（放射線部看護師長）
- 斎藤真（放射線部副看護師長）
- 阿部喜子（災害コーディネイト部門）

### ③ 緊急被ばく医療体制構築

経緯：福島で原発事故や傷病者発生時には  
当院が受け入れる協定締結  
今後**原子力災害拠点病院**に向けた  
**体制整備**が必須

経過：**緊急被ばく医療専門委員会**立ち上げ  
緊急被ばく医療対応講義（6回）  
救命センター実働訓練（2回）

訓練日：2015年9月25日

訓練概要：①災害対策本部立ち上げ・運営訓練

②ヘリポートから救命救急センターへの患者受入・実働訓練

訓練参加者：①副病院長、事務部長、各課課長、事務職員、  
スーパーバイザー等：計22名

②救命救急センター職員、放射線部職員：計24名

評価者：放射線生物学分野細井教授、福島県立医科大学病院島田医師



# Ⅲ. 平成28年度 活動計画

---

## 1. 対外活動

- ・ UDME  
(国立大学附属病院大学病院災害管理技能者養成研修会)
- ・ 仙台財務大臣・中央総裁会議対応
- ・ 宮城県災害医療技能研修会

## 2. 院内活動

- ・ 災害対策マニュアル改定
- ・ 総合防災訓練
- ・ 緊急被ばく医療傷病者受け入れ訓練

(上記予定)